

# 共通教育の教育課程を大幅に改革 金城アイデンティティ科目とアクティブ・ラーニング科目を新設

今年度より始まる共通教育科目に金城生としての自覚を身につける「金城アイデンティティ科目」と学生自らが考え活動する、新しい「アクティブ・ラーニング科目」が設けられました。

これらの科目を通して建学の精神を学び、社会に必要な知識と生きる力を身につけた女性を育成します。

大学では2002年の共通教育改革に続いて2010年度に大幅な改革が行われ、今年度より実施されることになりました。今回の改革で特に大きく変わったことは2つあります。1つめは建学の精神を学び、金城学院大学生としての自覚を持つための「金城アイデンティティ科目」の設置、もう1つは教員の指導のもと、学生自らがプロジェクトを作り活動を行う「アクティブ・ラーニング科目」です。

金城アイデンティティ科目については、「キリスト教」「女性」「国際理解」の3つのテーマを設け、全31の授業科目を設置。キリスト教と女性との関わりやキリスト教精神と医療、現代が抱える国際問題など、多彩な内容を通じて建学の精神を学びます。この講義

は1人の教員が行うのではなく、3～4人の講師によってオムニバス形式で行われることが多いのも大きな特徴。実際に現場で各問題やテーマに取り組む方の講義を聴きながら、具体的な事例について学ぶことができます。

アクティブ・ラーニング科目はアメリカではすでに定着していますが、日本ではあまり先例の多くない科目です。これは教員が教えるのではなく、学生自らがやりたいことを考え、それが大学が決めた基準や内容、時間に相当し科目として認定されれば、単位が与えられるというものです。例えば「学生プロジェクト」という科目では、実際に企業などの現場へ行って問題点を調査し、研究します(中部国際空港株式会社、株式会社名古屋観光ホテ



丹羽卓先生

ルの協力が得られることとなっています)。その調査結果から時には企業に改善提案なども行ったりします。また「ボランティア活動」は学内または学外で学生自らが内容を決めてボランティア活動を行う科目です。こうしたアクティブ・ラーニングを通して専門科目で身につけた知識を現場で発揮したり、あるいは現場で学んだ知識を社会で活用できる女性になってもらいたいというのが、この科目の目標であり私たちの願いです。

今年度の共通教育科目カリキュラムは1年生のみの適用となりますが、アクティブ・ラーニング科目については自由履修として3、4年生にも履修が認められます。多くの学生に積極的に参加してほしいと願っています。

## 共通教育科目

### I. 建学の精神を学ぶ科目 (金城アイデンティティ科目)

・キリスト教 ・女性 ・国際理解

### II. 現代社会の教養の基礎となる科目

・教養基礎科目

### III. 幅広く教養を身につける科目

・教養展開科目

### IV. 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目

・英語教育科目 ・外国語教育科目  
・情報教育科目 ・キャリア開発教育科目

### V. スポーツを通じて健康増進を図る科目

・S&E教育科目

### VI. アクティブ・ラーニング科目

・プロジェクト科目



## 金城アイデンティティ科目を受講して

現代文化学部  
コミュニティ  
福祉学科1年  
伊佐治京子さん

必須科目である「キリスト教学(1)」で初めて聖書に触れ、今は学院の創立者であるアニー・E・ランド

ルフやキリスト教について学んでいます。また朝の礼拝にも参加し、今まで体験したことのないような厳かな気持ちになりました。これまでキリスト教についてよく知らなかったのですが授業を受けて深く知りたいと思うようになり、後期に受ける「キリスト教

学(2)」や「人間の尊厳とキリスト教」も今から楽しみにしています。他にも後期は「異文化コミュニケーション論」を受講します。違う価値観を持つ人とのコミュニケーション術を学び、将来役立てることができたらと思っています。

## 読書感想文コンクールで受賞した輝かしい成果を評価され 毎日新聞社学校賞・サントリー学校賞を受賞

昨年、第56回青少年読書感想文コンクール(全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催、内閣府・文部科学省後援)が行われ、高校3年生の小林円加さんが「今、『蟹工船』を読む」という作品で愛知県コンクール自由図書の部で知事賞を受賞しました。作品は都道府県代表の752編のひとつとして中央審査会に進み、全国コンクール優秀賞である毎日新聞社賞も受賞。また同愛知県コンクール課題図書の「インパラの朝」で大矢奈穂子さんが優良賞を受賞しました。

小林さんは2007年の第53回読書感想文名古屋市コンクールの最優秀賞を経て第53回青少年読書感想文全国コンクール優良賞(全国学校図書館協議会長賞)を受賞。また2008年の第54回青少年読書感想文愛知県コンクールで愛知県知事賞を、2009年には愛知県私学読書感想文コンクールで優良賞を受賞。同年の第55回青少年読書感想文愛知県コンクール自由図書の部でも知事賞に輝いています。なお、このコンクールでは鳥山みわさんの「カレンダーから

世界を見る」という作品が課題図書の部で、愛知県知事賞と内閣総理大臣賞に選ばれています。

さらに2010年度の愛知県私学読書感想文コンクールで森實姫香さんが最優秀賞、奥村萌依さんと長坂佳穂里さんが優良賞を受賞。こうしたことが評価され、金城学院高等学校に毎日新聞社学校賞とサントリー学校賞が贈られました。中学校・高校の図書館教育が実を結んだ今回の受賞。今後ますます期待されます。

## 豊かな表現力を評価され、 「NTT西日本コミュニケーション大賞」を受賞

2010年度高校3年生コース I・B4選択「国語表現」の授業で生徒たちが「第8回NTT西日本コミュニケーション大賞」に作品を応募しました。生徒約90名は電話やインターネットなどの通信コミュニケーションにまつわる体験エピソードや活用アイデアをテーマに作文を書き、Webサイトから出品。今回は全国150校(または団体)から6,547作品の応募が

あり、その中で本校の生徒5名の作品が特に優れていると認められ、全団体の最高賞である「最優秀団体賞」をいただくことができました。昨年は優秀団体賞をいただき、2年連続で受賞。いずれも生徒たちが持つ豊かな表現力と文章力を高く評価される結果に。後輩たちへのよき手本や目標となりました。

## 高校バトン部全国大会で金賞

今年1月8日に千葉・幕張メッセで「第38回マーチングバンド・バトンワーリング全国大会」が行われ、バトン部が出場。見事金賞(バトンワーリング部門高等学校の部第3位)を受賞しました。

大会当日、幕が上がると同時に会場は大変大きな歓声に包まれ、部員たちはたくさんの方々に応援していただいていることを実感。感動の中ですばらしい演技を披露することができました。また日頃の努力が実を結び、栄

誉を勝ち取った部員たちの表情は誰もがみな輝いていました。

4月には新しいメンバーを迎えたバトン部。今年度は全国大会17回連続出場・金賞受賞をめざして頑張ります。今後もバトン部の伝統をしっかり受け継ぎ、たくさんの方々に支えられていることを常に忘れずに日々練習に励んでいきます。



## 2010年度 卒業生の進路状況

本校では2年次からコース制をとり、生徒が自分の適性や目的にあった進路を早めに選択し、その準備をするよう指導をしています。

今年度の金城学院大学への進学者数は、内部推薦者216名に公募推薦・受験での進学者28名を加えて計244名(卒業生全体の58.7%)で、薬学部への進学者数(内部推薦22名を含む28名)が多かったのが特徴です。

外部受験コースでは、神戸大・筑波大・名古屋大などの有名国立大学をはじめ、一部浪人も加えると、理系では国公立大医学部4名・私大医学部17名、文系では早稲田大3名・慶応義塾大1名・上智大2名をはじめ、青山学院大11名・立教大8名・学習院大7名・同志社大8名・同志社女子大9名・立命館大9名・南山大39名など、難関校にも多くの合格者を出すことができました。また、「関西学院大学との特別な協定校推薦制度」を利用し、今年度も8名の生徒が推薦され、関西学院大学の各学部へ進学をしています。

卒業生の今後のご活躍をお祈りしています。

(進学者実数)

国公立大	5
私立大	132
金城学院大	244
国公立短期大	0
私立短期大	3
専修・各種学校	5
就職	0
進学準備	27
その他(留学)	0
卒業生総数	416



## 生徒が作ったケータイハンドブック(第2版)で 保護者が読書&勉強会を開催

3月1日に中学校白百合館1階多目的ホールで金城学院高校生が制作した「ケータイハンドブック」をテキストにPTA読書会が行われ、中学校PTA教育部の保護者30名、高等学校PTA代表者10名、中学校と高校の教員5名が参加しました。

この読書会は「『ケータイ』に賢い保護者になるために」をテーマに企画。参加した保護者は事前に同ハンドブックを読み、代表者が感想を述べたあと、学習会助言者として同席された今津孝次郎先生(名古屋大学名誉教授)か

らコメントをいただきました。最後はグループごとに討論しながら「我が家のケータイルール」を作成し、全員で共有。「子どもが作ったテキストから大人が学ぶ」という全国でもめずらしい取り組みに、参加した保護者はとても有意義な時間を過ごしました。

4月にはハンドブックの第3版が完成。中学校の保護者全員に配付し、今後学習会を計画しています。こうし



中日新聞 2011年3月2日朝刊 市民版(中日新聞社許諾済)

た取り組みがそれぞれの家庭でも実践され、ケータイの問題が「自律的に」「親子で」解決できるように学校も支援を続けていきたいと考えています。

## 実際に笛や鼓も演奏体験 古典芸能の能楽を鑑賞



3月10日に、中学校で国語科鑑賞会が実施され、全校生徒が参加して能楽を鑑賞しました。

この鑑賞会は「生徒たちに『本物』

を教えたい」と毎年行われる学校行事で、これまでに歌舞伎やミュージカルなども鑑賞。今回は校内講堂で宝生流シテ方衣斐愛さんをお迎えし、有名な『敦盛』を舞っていただきました。

生徒たちは能楽独特の張りつめた雰囲気と幽玄の世界を体感。衣斐さんは本校の卒業生でもあり、公演後のインタビューを聞いてより親近感を覚え



古典芸能の独特の世界を体感



初めての鼓の前に真剣に話を聞く生徒たち

た生徒も多かったようです。

公演に先立って行われた体験コーナーでは、能のお囃子のうち、笛や大鼓、小鼓の演奏を体験。音の大小だけではなく音色の違いまで自在に扱う囃子方の芸に驚きながらも、古典芸能ならではの凜とした時間を体験したすばらしいひとときとなりました。



## みんなで手作りの飾り付け 厳かなイースター礼拝



「イースターの卵描いたの」「先生みて!耳をつけたらウサギタマゴ!」「カップでヒヨコちゃんも作ったよ」

画用紙に描かれた卵の形に色を塗り、模様を描いて切り抜くと素敵な卵オーナメントのできあがりです。ある子は卵の形を2枚切って貼り合わせ、中からヒヨコが出てくるようにと自分なりの工夫も。何日もかけてみんなでオーナメントを作り、前日にはゆで卵も一緒に作りました。それを年長児がみんなのためにシールを貼って不織布で包み、モールでくくってキャン

ディーの形に仕上げました。カゴ一杯に入れお花やウサギ卵も飾って、いよいよイースター礼拝の始まりです。

礼拝では日本キリスト教団名古屋北教会牧師・渡部信子先生のお話があり、また今年初めてリタニー(子ども交読文)も取り入れ、厳かに行われました。参加者全員で声高らかに「ハレルヤ」と声を合わせたことは、子どもたち一人ひとりの胸に響いたことでしょう。



今はまだキリストの復活を理解できるまでには至りませんが、春のひざしの中でお友達と一緒に卵の飾り付けをし、礼拝を行ったことを覚えていてくれたら…。そしていつか子どもたちにイースターの真の意味を知る日が来ることをお祈りしています。

## おいしいごはんありがとう! 楽しく賑やかな昼食の時間

幼稚園は学ぶ場であると同時に生活する場でもあります。昼食準備は子どもたちが協力し合って机を運び、丁寧に拭いて花を飾り、おいしくいただくことができる環境を自分たちの手で整えます。そしてみんなで讃美歌を歌い、神様からいただいているたくさんの恵みに感謝のお祈りをします。

金城学院幼稚園では、昼食に給食と



お弁当の日を設けています。給食の日を楽しみにしている子もいれば嫌という子もいますが、バランスのとれた食事をいただくことも食育の一環。どれもきれいに食べて「先生、給食全部食べたってママにいつかね!」とかわいとお祈りをする子もいます。また「好きな物がいっぱい」で「見て楽しい」、さらに「苦手な野菜もおいしく食べられる」工夫がされている愛情いっぱいのお弁当も子どもたちのお楽しみのひとつ。子どもたちにもその愛情が伝わり、母の日や卒



園式ではいつも「お弁当作ってくれてありがとう!」と感謝の言葉を伝えていきます。

昼食時間、隣には仲良しのお友達、楽しい会話を交えつつ「今日もおいしいごはんをありがとう!」と子どもたちも職員もみな、いつも感謝しています。